

# 第61回新潟県小中学校教頭会研究大会(新発田・北蒲原・胎内大会)の成果と課題

新潟県小中学校教頭会研究部

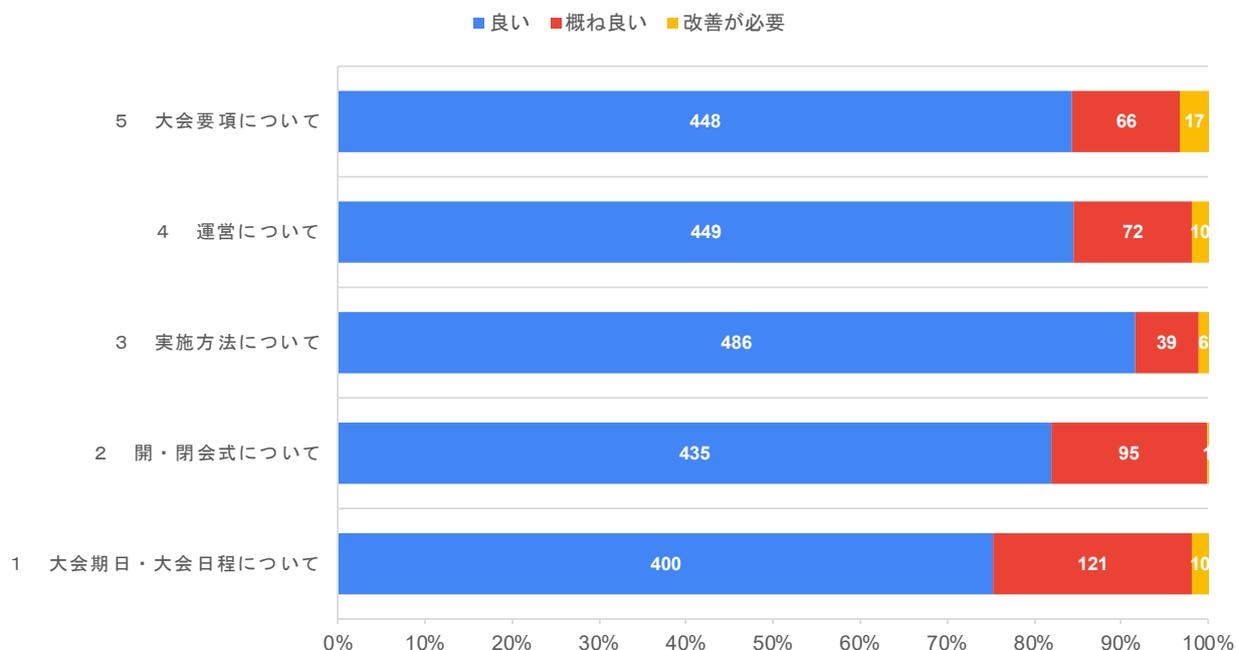
## 1 アンケート結果

### 第61回新潟県小中学校教頭会研究大会（新発田・北蒲原・胎内大会）アンケート結果

		1 大会期日・大会日程について ※11月1日を起点日として、その日に最も近い金曜日を大会期日として開催。	2 開・閉会式について ※簡略化して実施	3 実施方法について ※オンラインでの開催	4 運営について ※参加型分科会（少人数によるグループ協議）	5 大会要項について ※ホームページからの各自ダウンロード
全体	良い	400 75%	435 82%	486 92%	449 85%	448 84%
全体	概ね良い	121 23%	95 18%	39 7%	72 14%	66 12%
全体	改善が必要	10 2%	1 0%	6 1%	10 2%	17 3%
合計		531	531	531	531	531

	参加者数	アンケート回答数	アンケート回答率
全体	624	531	85%

### 第61回県小中学校教頭会研究大会アンケート結果



## 2 研究大会を振り返って

### (1) 研究内容について

第61回研究大会では、全公教\*<sup>2</sup>の第13期研究の3年目として、統一研究主題「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」（キーワード 自立・協働・創造）のもと、新潟県の今日的な課題を踏まえたサブテーマ「夢や希望に向かい、他者とともに自ら未来を拓く子どもを育む学校づくり」を設定して行った。「研究の継続性による成果と課題の焦点化」「研究の協働性の充実」「教頭の関与性の明確化」を明らかにした教育実践を持ち寄り、実践の有効性や妥当性などを検討することを目指した。

各分科会では、各郡市教頭会での検討を経た充実した発表であったことから、一人一人が自校の現状と実践を比較しながら意見交換を行い、活発な協議を行うことができた。

### (2) 分科会提案について

3年ぶりの全県開催となった本研究大会では、5課題8分科会の提案発表を行った。グループ協議では、発表者及び分科会運営者の尽力と参加者の主体的な参加によって、サブテーマ「夢や希望に向かい、他者とともに自ら未来を拓く子どもを育む学校づくり」に示した学校像・子ども像の具現化に向けた追究ができた。

分科会の成果を見ていくと、「働きやすさ」「働きがい」を目指した取組、不登校対応、学校・家庭・地域・行政の連携、持続可能なコミュニティスクールの在り方、若手教員の育成、教職員の専門性の向上等、現在の学校に求められる多様なテーマにおいて、教育活動推進における教頭に求められる資質・能力を追究した研究になっていることが分かる。

また、事後アンケートの記述からも、各分科会で、それぞれの研究テーマに正対した協議が行われ、研究の成果と課題を共有することができたことがうかがえた。

今後も、提案者には、①「研究テーマは何か」②「研究テーマに正対する結論は何か」③「結論を支える具体的な事実は何か」という論述の整合性を一段と高める配慮をお願いしていく。

### (3) 研究の基本方針（「研究の継続性」「研究の協働性」「教頭としての関与性」）について

県教頭会では、全公教の研究の基本方針を踏まえ、3つの研究の基本方針「客観的で継続性のある研究」「組織的で協働性のある研究」「教頭としての関与性を明確にした研究」を示している。

分科会の発表では、各郡市教頭会でアンケートを実施したり、定例教頭会の機会を活用して情報共有を図ったりするなど、それぞれの組織を生かした研究が行われた。その上で、教頭の在り方を多面的に追究した研究が多く見られた。各分科会の成果と課題からも、教頭のリーダーシップによる組織マネジメントの重要性を再確認することができた。

これらのことから、今年度の研究大会は、3つの研究の基本方針である「研究の継続性」「研究の協働性」「教頭としての関与性」が示された研究大会になったと言える。

来年度は、全公教の第14期統一研究主題を受けた研究の第1年次を迎える。これまで培ってきた研究の成果を生かし、第62回新潟県小中学校教頭会研究大会につなげていく。

### (4) 運営面について

#### ① 大会期日について

県教頭会\*<sup>1</sup>の研究大会期日は、原則として「11月1日に最も近い金曜日」ということになっているが、一昨年度の研究大会で、金曜日開催だと翌日の土曜日に文化祭等の行事を予定しているので別の曜日にしてほしいという反省が多かったため、昨年度から金曜日以外の曜日に開催することになった。アンケート結果を見ると、「よい」「概ね良い」の肯定的回答が98%となっていることから、今後も同様の日程で多くの会員が参加しやすい研究大会にしていく必要がある。

来年度は、ブロック別での研究大会となるが、開催期日を各郡市教頭会にできる限り早く伝え、会員一人一人に周知徹底を図り多くの会員が参加できる研究大会にしていく必要がある。

#### ② 実施方法について（オンラインによる開催）

今年度の研究大会もオンライン開催となった。令和3年度からオンラインでの開催となっているが、これまでのノウハウを生かして大きなトラブルもなく研究大会を実施することができた。オンライン開催については、研究大会後のアンケートでも「よい」「概ねよい」の肯定的評価が99%だった。参加者からは、移動時間の削減、学校を空ける時間の短縮等の面からも今後も継続してほしいという意見をいただいた。

### ③ 少人数での協議

各分科会のグループ協議では、ブレイクアウトルーム等を活用して少人数によるグループ協議が行われた。少人数での意見交換ということで、参加者が自校の現状や実践と比較しながら意見交換を行うことができた。事後のアンケートでも、「少人数のグループで協議しやすかった」「少人数のグループで他校の様子を詳しく知ることができてよかった」等、肯定的な意見が多かった。

一方「分科会の時間が短かった」「6人グループでは人数が多すぎた」という意見も寄せられたので、来年度に向けて、グループ編成や分科会の時間配分等に十分な配慮をした上で、グループ協議を核にした分科会運営を継続していく必要がある。

### ④ 大会要項について（ホームページからの各自ダウンロード）

大会要項については、研究大会後のアンケートでも「よい」「概ねよい」の肯定的評価が96%だった。要項については、令和3年度から各自で教頭会のホームページから事前にダウンロードするという形で参加者の手元に届くようにしている。そのため、参加者は大会要項を精読して、分科会の提案骨子や協議の視点を理解し、各自が問題意識をもって会に臨むことができたと考える。しかし、「教頭会ホームページのパスワードが分かりづらかった」という意見が複数寄せられたので、パスワードにルビを振るなどして改善していく必要がある。

## 3 今後の研究大会に向けて

来年度は、全国公立学校教頭会第14期統一研究主題「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」（主題に迫る視点 【持続可能な社会の創り手の育成】 【ウェルビーイングの向上】）を追究する初年度となる。

研究の3つの柱「研究の継続性」「組織研究としての協働性」「学校運営における教頭の関与性」をさらに充実させ、一人一人が大会に主体的に参加し、各学校及び各教頭会でなされた取組について協議し、互いの実践から学び、成果と課題を共有し、教頭としての資質向上を目指していく。そのためにも、今年度の研究の成果と課題を踏まえた上で、より充実した研修を推進していく。

\*1 新潟県小中学校教頭会の略称      \*2 全国公立学校教頭会の略称